

## 終了報告書

|          |   |
|----------|---|
| 留学プログラム名 | G20 Youth Forum 2014 (Conference)                                       |
| 所属(本学)   | 社会理工学研究科 社会工学専攻 修士 2年   |
| 留学先国     | ドイツ(ミュンヘン)  |
| 留学期間     | プログラム実施期間: 2014年 5月 7日~ 2014年 5月 11日<br>滞在期間: 2014年 5月 6日~ 2014年 5月 13日 |

### ① 留学先(参加プログラム/受入れ機関)の概略

G20 Youth Forum は、世界中から若いリーダー(大学生やビジネス界、政府等で活躍する方)が集まり、3つのメインイベントが開催される場である。その3つのイベントとは、Youth Summit、Conference、International Parliamentarians' Debate である。主なものは Youth Summit と Conference であり、今回東工大から派遣可能であったのもその2つであった。それぞれの概要は以下の通り。

Youth Summit: 参加者はそれぞれ自分の国の何らかの大臣に扮して(例えば、開発大臣等。扮するというか、その大臣として振る舞う)、実際の G20 にて議論されているようないくつかのテーマごとに分かれ、それについて議論を行い、共同宣言を作成し、それを IMF や世界銀行、OECD といった実際の国際機関に提出する。

Conference: 以下の8つの分野に分かれ、一つを選び、そこに Forum 開催の前に論文を提出し、当日はその論文についてのプレゼンテーションを行う。

1. Economy and Finance
2. Law and Human Rights
3. World Policy and International relations
4. Social Affairs and Medicine
5. Ecology, Environment and Resources
6. Technology and Innovations
7. Education and Youth
8. Humanities: history, philosophy, linguistics and journalism

私は Conference の Economy and Finance の分野に参加した。Conference 自体の内容も含め、詳細は後述する。尚、Conference の発表者は主に院生か大学4年生であったようで、若い学部生は Conference 参加者として登録されていても必ずしも研究発表を行う必要はないらしい。そして、この Forum の参加者の大半は Summit 参加者であったようである。

### ② 留学前の準備

昨年東工大から派遣された方が私の友人であったため(また、友人も Conference 参加者であったため)、彼から多くの話を聞くことができた。

G20 Youth Forum を Google で検索し、公式ホームページに行ってもあまり有益な情報は得られない。なので、フォーラム自体についての細かな質問は G20 Youth Forum のメインのメールアドレス宛に直接行った。ホテルについて、Conference についてなど、様々な質問に非常に迅速に対応してくれ、とても助かった。

プログラムは全て英語で行われるということであったので、私は学部一年の時に第二外国語で勉強したのみで、全くドイツ語を勉強していかなかった。(結果として開催中は確かに全く問題なかったが、町中で苦勞するわけであるが…)

尚、来年以降は会場が変わると思うが、ドイツはこのプログラム程度の短期滞在であればビザは必要ない。しかし、短期滞在といえどもビザが必要な国もあると思うので、ビザの準備は早めに行う必要があるだろう。

### ③ 留学中の活動及び感想

前述の通り、私は Conference の Economy and Finance というラウンドにおいて、自分の修士論文研究についての発表を行った。同じ Economy and Finance のラウンド内においてもいくつかの分野に分かれていて、私はその中でも数学的基礎研究のカテゴリに割り当てられていた。私の研究分野は数学や統計であるので、妥当ではあった。

発表時間は約 10 分、質疑応答は約 20 分であった。

同じ Economy and Finance であっても、参加者の専門分野はまちまちであり、経済分野であっても、私の専攻である社会工学専攻ではあまり突っ込んで扱わない金融や労働などの「具体的な」事柄について研究している人が殆どである印象を受けた。日本で言う「文系」の人が多くいたと言えばわかりやすいと思う。私以外の発表者の質疑応答では「それらしい」議論がなされていたが、私がスライドに 2 本簡単な数式を載せただけで会場がどよめき、質疑応答も、当然数学の質問はほとんどなく、質問者も、基礎研究をどう応用していくか、などといった実用に繋がるような質問をしてきた。研究法についての質問が多い、研究室や学会と真逆の反応であり、ある意味新鮮な体験であった。

これはほとんどのイベントにおいてであるが、参加者の多くがカナダ人・オーストラリア人といった、英語のネイティブスピーカーであり、彼らのペースで話が進んでいった。私は聞き取りや雑談にはほぼ苦勞しなかったが、プレゼン・質疑応答では言葉に詰まることもあり、恐ろしく劣等感を覚えることもあった。過去に外国で公衆の面前で話をしたときでもここまでの劣等感はなかったのは、その場ではここまで英語のネイティブスピーカーに囲まれていなかった(中国人やロシア人なども多かった)ためであったと思う。実際の外交の場でここまでネイティブに囲まれるのかどうかはわからないが、なかなかのプレッシャーである。しかし、議論の内容の難易度はそこまで高くない。十分な知識と経験があれば語学のハンデをカバーできるところかその上を行けると思う。しかし、今回の私の場合、文系の学会に理系が紛れ込んだような形であり、彼らの具体的な事項についての議論に参加することが難しかった。

以上が、Conference の報告になる。Forum の主な活動の行われる初日である 8 日の昼には開会式、夜にはクラシックコンサートの後にディナーパーティが、最終日である 11 日は昼には閉会式、夜にはパーティが開催された。パーティはいずれもドレスコードが設けられている。こういった式典を通して帝王学を学ばせる意図を感じた。

また、パーティには開催地の文化に触れることも重視しているようで、特に 11 日のパーティにおいてはドレスコードの一つにドイツ南部の民族衣装が含まれているなどしていた。

ちなみに、Forum 全体を通して、最低ビジネスカジュアル程度のフォーマルな服装を要求された。私はそのような記載を見落としていたのか、あまりフォーマルな格好ができなかったのも、次回参加される方は忘れずスーツを持って行ってほしい。

### ④ 留学費用

渡航費は往復で約 12 万円、Youth Forum 参加費は、海外旅行保険に約 5000 円、ミュンヘン市内から会場までの交通費が往復約 40 ユーロ。奨学金は 6 万円。

### ⑤ 留学先での住居

メインの会場付近にあるホテル(ダブルルーム)にオーストラリア人の女性と滞在した。参加者は会場周辺の数種類のホテルからどれか一つをランダムに割り当てられる。

ちなみにプログラム申し込みの時点でシングルルームかダブルルームどちらを希望するかを問われる。シングルルームを希望すると価格が高くなる。ダブルルームを希望すると、価格はシングルルームよりも抑えられるが、ルームメイトをこちらから指定しない限り、一緒にの部屋に滞在する人も開催者がランダムに決められるらしい。

### ⑥ 留学先での語学状況

すべてのイベントは英語で行われる。ちなみに、私が半年前に受けた TOEIC は 965 点、2 年前に受けた TOEFL は 95 点である。前述の通り、聞き取りには全く問題を感じなかったが、プレゼンテーションや専門の話、他の参加者のプレゼンへの質疑応答では自分の思ったことをうまく口にできずにもどかしさを感じることも多々あった。しかし、この劣等感は、無論自分の語学力不足もあるが、参加者の多くがオーストラリア人やカナダ人であったことも原因の一つであると思う。他のアジア人の英語力と自分の英語力には大差ないと感じたし、実際、アジア人と「英語が上手く話せないよね」という話で盛り上がり

てしまったくらいである。ただ、雑談には苦労しなかった。

⑧ 単位認定

単位認定は行わない。

⑨ 留学経験を今後、どのように活かしたいか

今後、仕事でこのように研究発表をする機会があるかどうかかわからないし、将来学術方面に帰ってくるかはわからないが、英語で公衆の面前で、しかも専門外の人前で発表することができたのはいい勉強になったと思う。

また、もし自分が同一かそれ以下の知識しか持ち合わせていない場合、国際交渉の場では英語圏の人に純粋に交渉力で押されてしまうということを、強い言葉になるが、その屈辱を、身をもって体感した。これは日本人に限った話ではない。実際の外交の場では通訳などもあるとは思いますが、国際会議等の場では相応の準備が大切だと思った。

⑩ 留学先で困ったこと(もしあれば)

プログラム自体と直接の関係はないかもしれないが、ミュンヘンの町中では自分が思っていたほど英語が通じなかった。自分の期待値が高かっただけだが…。日本では英語が通じないと言われるかもしれないが、案外そうでもないのかもしれないと思った。

⑪ 留学を希望する後輩へアドバイス

G20 などと聞くと、大袈裟で堅苦しく思えるかもしれないが、Youth Forum なので参加者の年代は私達東工大生と大して変わらず、知識量や思考も大して変わらないので、資金と余裕とわずかな興味があれば気負わずに参加すると思う。余程長期に渡って海外に出ていない限り、確実に語学面での劣等感を味わうと思うが、それを感じに行くのも一つの経験であると思う。